



# 園だより 10月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和6年9月30日発行

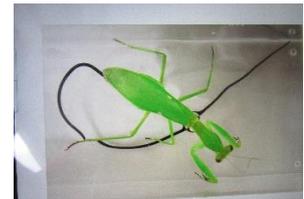
## カマキリの一大事

園長 佐藤 淳穂

にぎやかな歓声は年長組のリレーです。いつのまに、こんなに力強く走るようになったのでしょうか。応援するさくら組の子どもの前を通り過ぎると、ふわっと風が起きるくらいです。園庭は夏休み中に改良工事が入ったので、気持ちよく整備されています。これから、毎日のようにバトンを手に全力で走る姿が見られることでしょう。

そんなある日。「カマキリのうんちが動いている！」という声が聞こえました。駆けつけると、4歳児の子どもたちが飼育ケースを取り囲んでいました。飼育ケースの中には、カマキリのほかに、黒くて細い革ひものようなものがありました。その黒いひも状のものは15センチくらいもあって、クルンクルンと動き回っています。「カマキリのお尻から出てきたんです！」子どもたちと一緒に驚愕の瞬間を見たという担任も興奮状態です。4歳児のAさんの背中をつたい歩きしていたカマキリを捕まえて、飼育ケースに入れた途端に、黒いものが現れたということでした。

Bさんは冷静に「うんちは動かないでしょ。」と言いました。タブレットで「カマキリ」「お腹の虫」で検索すると、目の前にいる黒いひも状のものと全く同じものが出てきました。それは「ハリガネムシ」という寄生虫でした。正体を突き止めたものの、ハリガネムシはカマキリの体内からどうして出てきたのか、この後、この虫をどうしたらよいものか、「どうする?」「なぜ?」が次々と押し寄せてきます。「またカマキリのお腹に入ってしまうかもしれない」「別々のケースに入れよう」「ハリガネムシを庭に放したら、ほかのカマキリがやられちゃうよ」…命がけの虫たちにどう関わったらいいのか、子どもたちなりに真剣に考える姿がありました。



まもなく、ハリガネムシは動かなくなりました。数分で息絶えて硬くなってしまったのです。実はハリガネムシは水中生物で、寄生したカマキリを水辺に誘導して水中に帰るらしいのですが、なぜか飼育ケースに出てきてしまったようでした。

このカマキリ的一大事については、学級で共有しました。目撃した子どものたどたどしくも熱い語りを、みんな息をのんで聞き入っていました。虫の大好きな子もあまり興味のない子も、目の前の出来事の理を知りたいと思い、つながりを考えようとし、命を感じています。こうして自分事として関わることで体験をより深いものにするでしょう。

今月は運動会があります。小さな園庭ですが、毎日の生活を営むこの場所で実施できることはありがたいことです。ご参加の皆様もぜひ一緒に、楽しい一日をつくっていただけたらと思います。